

「合格するには」

受験までの三ヶ月 どうする？

塾長 上谷 恭範

受験まであと3ヶ月、今、受験生・保護者が真剣に考え、考えてあげなければならないことは、以下の三点である。

一、身体と精神の健康である。試験は一発勝負である。試験当日に、腹痛、頭痛等で気怠(けだるい)状態で、集中して問題文を読み、解答することは到底不可能である。「健全な身体に、健全な精神は宿る」のである。その精神であるが、勉強には、集中力、忍耐力、持続力、そして達成力が必要不可欠である。刻苦勉励の精神である。楽して物事を達成することは出来ない。親は子に諭してもらいたい。厳しい親になっていただきたい。

二、次に、勉強時間と勉強内容について述べる。朝6時に起床、6時30分から1時間勉強、学校から帰宅し塾のない日には16時から夕食までの3時間、夕食後20時から就寝まで3時間、1日合計7時間の勉強、塾のある日は17時から21時30分まで4時間、帰宅して1時間の合計6時間、土曜・日曜日は合計10時間の勉強ができる。

勉強内容について、中学受験生は『予習シリーズ』小5上下、小6上下の計4冊を10回読み、書き、解き、暗記してください。そして、志望校の過去問を5回やり直し下さい。高校受験生は中1から中3までの教科書をすみからすみまで10回読み、書き、解き、暗記すること。志望校の過去問を5回解いてください。

以上の事をやり遂げるには先述した集中力、忍耐力、持続力、達成力を発揮していかねばなりません。結論として、この試験を乗り越えていけば、将来待ち受けるものもろの苦難も解決していけると思う。人生のどこかで、試験を突破しなければならぬ出来事に出会う、その礎として……

まだ間に合う！

金子 義一

十月から日曜教室、過去問演習が始まりました。まだ合格点には、程遠いのが現実です。

しかし生徒の皆さんは確実に変わってきています。具体的な例を挙げますと、ある生徒曰く「わたし、食塩水の問題は得意になったわ。」「ぼくは、相当算は夏期講習で学園長先生から教えられてわかるようになった。(金子も忘れずに……)」などと発言も出て問題への取り組みは、より積極的になっていきます。この積極さが必ずや実を結びようになります。では、何をすれば良いのか？言わずと知れたこと、間違い直しを徹底的にやることです。

解き方を暗記してください。グラフの読み取りががんばってください。面積図を書いてみてください。勝手に苦手だと思いつまみで下さい。

大丈夫、修明塾があるじゃないですか！

合格を手に入れるには

脇田 良子

入試まであと三ヶ月を切り、模擬試験や合否判定の結果が返却されるたび、志望校の選択や日程の選択で迷い、悩んでいる時期。

しかしここで志望校を次々と変え、合格できそうな学校を選ぶことは、学力を落とすことになる。第一志望校をはつきりと定め、弱点を強化し合格出来る力を付ける努力をすることが大切。定めた目標に向かい努力する生徒に、私達教師はいくらでも手助けいたします。

学力を上げることがお子様と教師に任せ、ご家族は受験生が落ち着いて勉強出来る環境を整えてあげて下さい。難しいことではなく、お子様の好きな食事を作る、塾から帰って疲れているようなら温かく迎える。また体調面の管理等、家族でしか出来ないことを担って下さい。ご家族・受験生・塾(教師)の三者の力のバランスが整ってこそ、合格を手に入れることが出来るのです。残りわずかと思わず、残された日々を十分に活用しましょう。まだまだ『時間』はあります。これから一番学力の付く時期です。しっかりと勉強し悔いのない日々を過ごし「合格」を手に入れましょう。

模試・入試過去問の活用

柴田 圭

中学三年の高校受験生の皆さん、出願に不可欠な内申を最終確定する期末テストが迫り、また定期的な模擬試験による偏差値・志望校判定に一喜一憂していることでしょうか。試験当日まで、緊張感を持って受験勉強を継続していくには、「現状の成績に対する正確な分析」と「出題傾向に合った学習法」を徹底することです。その両方を手助けしてくれるのが、「模擬試験都立・私立(もぎ)」です。

第一志望校の合格に向けて、基準となる「内申」「当日の点数」に対し、今の自分はこの位置にいるかを把握しましょう。克服すべき課題も定まってきます。これまでに受けた模試の解き直し、都立・私立の入試過去問は最低十カ年分を解く(塾の通常授業でも解説はしますが……)、それだけ試してやっと出題傾向に気が付くようになり、受験生らしい勉強スタイルも確立します。「具体的な目標」があるからこそ、ヤル気も出るのです。自分だけが感じられる達成感を是非味わって、前向きに取り組んで欲しいです。

確実に点数を取ろう

神保 克明

中学受験生、高校受験生ともに受験まで3ヶ月足らずとなり、模擬試験も何回か経験していると思います。模擬試験もなれて来ていると思います。この時期からきっちり意識してほしいのは、点数を確実に取る事です。出来る問題、算数・数学の計算、国語の漢字等出来る問題で取りこぼしをしないように、しっかりと見直し、解き直しをして確実に点を取るようになすことです。応用問題を解くまで時間が無くなっても良いのです。合格点を確実に取るための方法です。点数がしっかりと取れる方法が分かれば自信も付き、試験の時に余裕ができます。すると頭が働き応用問題もできるはず。あなたの合格はより確実なものになります。

あと数カ月の勉強で、今できない問題が出来るようになれば合格はより確実になりますから、日々の勉強は当日までコツコツ続けましょう。

修明学園は、平成21年9月に「地域の活性化を目指し、安心安全な町づくり」をスローガンに、『親と子と教師による学びのサロン』という企画を立ち上げました。知の発信地となり、地域の皆さんと一緒に「本物・良いもの・良い人」に触れる機会を作り、教育を通じた地域社会への貢献をしていく目的があります。これまで、毎日新聞社の記者、修明学園の出身の医師などを招いて講演をしていただきました。

その第7弾として、平成22年3月21日に、台東区の浅草橋区民館で開催した『慶應義塾大学の先生に触れる、大学とは何か、学ぶとは何か』の講演録を連載形式でご紹介することになりました。

【前号より】けれども、これもご存知の方がいると思いますが、その「最高学府」には、大学には色んな問題があるぞ、そう多くの人々が言うようになっていきます。

まず「大学生の質」ということが問題になっていきます。大学生というのは最高に難しいことを勉強しているはずなんですが、彼ら彼女らの学力はそうでもなさそう。たとえば皆さんも見られるかもしれないが、いまクイズ番組で「インテリ芸人」と呼ばれる人たちが重宝されていますね。「ロザン」の宇治原さんなどです。こういう芸人さんたちが注目されるというのは、ごくごく最近のことじゃないでしょうか。昔から芸能界には、いわゆる一流大学を出ている方がいましたよ。けれども、テレビ番組というのは、そういう方々がいかにモノを知らないか、そのことを揶揄して笑う、そういう「作り」になっていったのが大半なんです。このように、おおよそ大学生といえないような大学生が増えてきた。大学を出ていきます、と言って、世間常識さえわかっていない人たちが増えてきた。これは大変だ、と多くの人が危機感を抱くようになってきました。

ただ、勉強しようとする大学生という問題は、昔からありました。僕が勉強していることと関係しますが、大学という学校はいまから7・800年前のヨーロッパで誕生しました。当時は大学に進学する人が本当に少なく、大学生というのはものすごいエリートだったんです。じゃあ昔のエリート大学生たちはみんながみんな、ひたすら勉強に励んでいたかと決してそうではありません。イギリスにケンブリッジ大学という学校があります。名門中の名門ですが、この大学、もともとこれは名門のオックスフォード大学から枝分かれしてできた大学です。しかも、枝分かれの理由は、「オックスフォードの街が近ごろ学生や教師たちの便宜をはかってくれなくなってきたじゃないか」といったものです。もちろんオックス

フォードの街には街の理由があつて、いまもそうです。学生たちが酔っぱらって色んな悪さをする。目に余るものがある。「それじゃ困りますよ」と、街側が申し入れしたところ、教師や学生の組合が「逆ギレ」して、「だったら、こっちが出て行って、どこか別のところで新しい学校を建てようよ」と、そう啖呵を切つて、ケンブリッジの街に移住したのが、かの名門大学の始まりなんだそうです。昔も今も、学生というのは困つた存在なんです。

そういう「困つた大学生」と同じくらい問題になるのは、大学で教える教師、つまり大学教授や准教授と呼ばれる先生たちのことです。ここからしばらく、自分で自分の首を絞めるようなことをお話ししなくてはなりません。いまの大学にはずいぶん困つた先生たちがいる、そう言われます。

まず、自分のことを棚に上げて報告しなくちゃいけません。大学の先生という地位にあぐらをかいて、自分で勉強しなかつた教師がいる。これは論外としても、勉強はしているんだがどうも勉強内容がマニアックで、そのマニアックな勉強の成果を大学生たちの味にお構いなく延々としゃべるだけの教師がいる、教室にいる大学生たちの顔を一度も見ないで、です。こうなると、授業に出てみようという気持ちが大學生たちの中で一気になくなります。つまらないからです。出てきても、大学生たちは教室で、べちゃくちゃ、おしゃべりに励むことになる。すると教師もやる気がなくなるから、ますます学生たちの顔を見ないで、ぼそぼそマニアックな話を続けることになる。授業を楽しめない学生と、授業のやる気のない教師との間で、悪循環が生まれます。

こうなると、「最高学府」にふさわしい教育が大学には期待できなくなります。しかも、ちよつとしたテクニクを身につければ、そういう一度も出席しなかつた授業のテストであつても、それをパスすることができるようになるんです。大学というところは、結果として、「本当に大学出たの？」と驚かれるような学力しか身につけていない大卒が、つまり大学卒業生が、次々に社会に送り込まれるようになります。「ゆとり世代は困つたものだ」なんていう、若い人々には失礼の上ない言ひ方を新聞やテレビで聞くことがあります。そういう言ひ方は昔からあつたんです。「もつと大学生は勉強しろ、もつと大学教員は勉強させろ」と叱られてるのはまだいい方です。大会社社長さんたちからは「下手に大学で勉強はするな。卒業後入った会社でキチンと勉強させるから」と言われたりします。

2014修明塾スケジュール

11月の予定

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月の予定

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

10月5日(日曜)～1月下旬 小6・中3受験生対象「日曜教室」
 12月24日(水曜) 12月通常授業の最終日
 12月25日(木曜) 冬期講習の準備日のため休講
 12月26日～1月7日 冬期講習(1月1日～3日除く)

☆申込受付中☆ 各教室に申込用紙がございます

漢字検定 <修明学園・準会場第3回>

実施日 2015/1/31 (土曜)

※申込締切12/15まで

数学検定 <修明学園・準会場第3回>

実施日 2015/2/14 (土曜)

※申込締切1/10まで



修明塾の
 実力が完成する冬期講習
 受験生の総仕上げ!

12/26⇒1/7 (全10日間)